



職人の^{きょうし}矜持が生きる

特集 ^{むら かみ き ぼり つい しゅ}村上木彫堆朱の魅力

国の伝統的工芸品の指定を受けている「村上木彫堆朱」。花、鳥、山水などの図柄を木地に彫刻し、漆を塗り重ね、さらに毛彫りを施して漆を擦り込む。独特の技法が生んだ至高の美の世界。その技術力と品質の良さは、漆工芸品として高く評価されています。

しかし、村上木彫堆朱を取り巻く現況は、職人の高齢化や後継者不足、知名度不足などの問題を抱えています。

この現状を打開するため、平成28年度から村上木彫堆朱のプロモーション事業に取り組み、平成29年4月からは、村上堆朱事業協同組合が、3人の若者を雇用し、後継者育成を始めています。

今回の特集では、この村上木彫堆朱の魅力に迫ります。

村上木彫堆朱の種類



ついで
堆朱

村上の伝統的な技法で、木地に彫刻をして漆を塗り重ねて仕上げます。使いこむことで、自然なつやと明るみが増していきます。



ついで
堆黒

堆朱と同様に伝統的な技法で、中塗りから黒漆を用いて上塗りし、黒呂色漆にて塗り上げます。



しゅだめぬり
朱溜塗

堆朱の工程のつや消し後、さらに溜漆を2、3回塗り重ねて丁寧に研磨して仕上げる技法。



いろうるしぬり
色漆塗

上塗りに数色の色漆を用いて、鮮やかに塗り上げる技法。これにより色彩豊かな表現が可能となりました。



さんさいぼり
三彩彫

彫漆とも言い、彫刻のない木地に朱・黄・緑の三色を塗り重ね、最後に黒を塗り上げてから表面を彫り、色を出す技法。



きんまぬり
金磨塗

堆朱、堆黒の色漆の間に金箔を置き、研ぎ出しをして彩色と金箔の美しさを出したものです。

村上木彫堆朱の歴史

堆朱の歴史は大変古く、中国・唐の時代（六一九〜九〇七年）に始まり、平安末期〜鎌倉初期に日本に伝来したといわれています。村上における堆朱の歴史は、江戸時代に武家の余技として武士の間で始められ、以降は藩主の奨励もあり、町民にまで広く伝わって盛んになりました。

長きにわたり、伝統と技法を守り続けてきた村上木彫堆朱は、昭和30（1955）年に「新潟県文化財」に指定され、昭和51（1976）年には国の「伝統的工芸品」にも指定されました。現在では上記の6種類の技法をひとまとめにし、村上木彫堆朱と呼んでいます。

村上木彫堆朱の特徴

「堆」と「ついで」には『積み重ねる』という意味があり、堆朱は朱色の漆で厚い層をつくり、山水や花鳥を浮き彫りにしたものです。



もともとの堆朱は、漆を塗り重ねて厚みを出し、そこに彫刻を施して文様にしたものです。対して村上木彫堆朱は、芯になる木地に彫刻を施し、そこに漆を塗るといった技法が取られています。この技法は江戸時代に編み出されたもので、本来の堆朱を木彫りとして再現した村上独特の技術です。

そして、もう一つの特徴がツヤ消しです。鏡面のように曇りなく、つやつやと光る他の漆器に対し、村上木彫堆朱はおぼろ月の光のような奥深いツヤがあります。さらに、普段から使用することにより、手になじんだ味わいのあるツヤが生まれてきます。



いしづか みお
石塚 未央さん
長岡市出身、24歳
趣味は絵を描くこと



たかはし かおる
高橋 郁さん
松山出身、25歳
趣味は音楽鑑賞



おおは た やすはる
大葉田 康晴さん
安良町出身、31歳
趣味は読書

村上木彫堆朱の世界に飛び込んだ3人

後継者育成に動き出す

村上堆朱事業協同組合では、産業の活性化と後継者育成のために、昨年4月から3人の若者を雇用しています。この世界に飛び込んだ新人3人にインタビューをしてみました。

―後継者育成に応募した理由を聞かせてください。

大葉田 祖父が村上木彫堆朱の彫り師をやっていたのを小さい頃から見ていて、いつかは自分もやりたいと思って応募しました。

高橋 家族に勧められて職業訓練校で村上木彫堆朱を習っていた時に、この育成の話があったので、ぜひやってみようと思に応募しました。

石塚 会津の塗りなどにも興味を持っていたのですが、村上木彫堆朱の三彩彫さんさいぼりの作品に魅みせられ、こんなきれいなものをも自分でも作れたらいいなと思に応

募しました。

―実際に村上木彫堆朱をしてみての感想とその魅力を聞かせてください。

大葉田 自分の集中力が生かせて、彫りから塗りなどいろいろなことができて面白いです。文様が繊細せんさいで村上の伝統が息づいているところが魅力です。

高橋 覚えることがたくさんあるので大変ですが、じっくり取り組めるところが自分に合っていると思います。ひとつひとつ長い工程を経て作品ができるところが魅力です。

石塚 中身を知るたびにいろいろな発見があり、奥深さを感じます。手間暇を惜しまず妥協せず、ひとつの作品を完成させるところが魅力です。

―将来の夢を聞かせてください。
大葉田 村上木彫堆朱の伝統は継承していかなければならないと思います。自分がそれにな



▲彫りの練習に励む3人

り、さらに次世代に引き継いでいけたらいいなと思っています。

高橋 はっきりとした考えはまだありませんが、村上木彫堆朱の継承ができていければいいと思っています。

石塚 伝統を生かしながら現代的な要素を取り入れた堆朱を作って、自分のお店を持てたらいいなと思っています。

後継者に教える職人たち

この3人の若者たちに村上木彫堆朱の技を教えるのが、ベテラン職人の方々です。



【彫りを教える】
彫り師 川上 健さん (小国町)

手仕事が好きで川上さんは、16歳で堆朱の世界の門を叩き、これまで48年間彫り続けてきました。

彫りの魅力を「木のぬくもりを感じながら、自分好みのものに作品を仕上げたときの達成感」だと語ります。「木の質や木目によって彫り方を変えなければならぬところは、今でも難しいが、やりがいがあるんだよ」。彫る箇所によって何本もの彫刻刀を使い分け、ひと彫りひと彫り

に魂を吹き込むといっています。

育成中の3人に向けて「3年間頑張つてほしい。この業界を引っ張っていく世代なのだから、私の技術を惜しみなく伝えたい。今後は若い世代に活躍してもらわないといけないので、若い人たちの感覚も取り入れて、村上木彫堆朱を進化させていってほしいですね」とエールを送ります。



▲彫刻刀の柄は、すべて手作り



【塗りを教える】
塗り師 小田 和生さん (肴町)

絵を描くことが好きな小田さんは、高校卒業後に上京し、縁店へ就職。5年後にもっと自分に合ったいいものを作つてみたいと村上に戻り、漆の世界へ。修行を積み27歳の時に、塗り師として独立しました。

漆の特徴を「化学塗料では出せない優雅な色合いが出るし、漆の塗膜には通気性があるので中の木が蒸れない。抗菌作用もある」と語ります。「実は、一番重要なのは塗りではなく研ぎなんだよ」と話し、たくさんの砥石を取り出す小田さん。「堆朱は塗り重ねていくものだから、塗った後にできる刷毛目や塗りムラをなくするために、砥石で研



▲砥石の数々、これでも一部

がなければならぬ。『塗っては研ぐ』の繰り返しだよ。繊細に彫られた絵柄の凹凸に合わせ研ぐために、いろいろな形の砥石を使います。

育成中の3人に向けて「黙々と取り組む姿勢が素晴らしい。3年間で、なんとか多くの技術を習得してほしいですね」とエールを送ります。



村上堆朱事業協同組合専務理事に聞く

専務理事

高橋 利英さん(猿沢)



村上木彫堆朱は、以前は引き出物や記念品などのいただき物として、市民の方も手に入れることが多かったものです。今も各家庭に眠っている村上木彫堆朱の品々を、もっと気軽に使ってほしいと思います。例えば使うほど、色つやが出て味わい深いものとなり、丁寧にあつかえば長期にわたり使用できます。これからは、これまでの伝統的なものも残しながら、時代にマッチした新しいものを取り入れていかなければならないと感じています。

新たな試み

堆朱に若い感性を

村上堆朱事業協同組合が、長岡造形大学と3年前から行っている村上木彫堆朱の開発プロジェクト。このプロジェクトは、同大学の学生が市内の堆朱店を訪れ、歴史や製作工程などを学び、学生が思い描いたデザインを、職人たちが実際に作品を試作する取り組みです。

これまでも「地球儀」や「時計」などを製作。昨年には実際の試作品から商品化されたブックカバー「KOITTEN(紅一点)」が誕生しています。



▲背表紙が村上木彫堆朱となっているKOITTEN(紅一点)

堆朱を日常に「朱器」誕生



▲普段使いできる、ぐい呑みの「朱器の酒器」

現代のクリエイター4人と職人のコラボレーションから生まれた、普段使いの漆器ブランド「朱器」。気持ちを晴れやかに演出する朱色を生かしたデザインモチーフとなっています。

昨年2月、東京都渋谷区で開催された「ROOMS4」(約500のブランドが集結したファッションとデザインの合同展示会)の地場産ブースに参加し、この朱器を展示。会場審査で、優れた作品の証であるティスカパー・ジャパンの高橋統括編集長アワード賞を受賞しました。

堆朱を使ってみましょう

知れば知るほど、その奥深さに魅了される村上木彫堆朱。おそらく、市民の皆さんの自宅や実家の押し入れ、タンスなどにしまい込んであるのではないのでしょうか。この機会に、ぜひ、堆朱を出してみませんか。そしてまじまじと見てみてください。その彫りと塗りの鮮やかさに感動するはずですよ。

年の初めに、村上木彫堆朱を飾り、使ってみましょう。村上の職人たちが丹精込めて作った作品は、飾ること、使うことで生きてきます。

PR動画を配信中

女性アイドルグループ Negicco(ねぎっこ)が紹介しています



村上木彫堆朱の技と朱器を紹介しています



● 問い合わせ

村上堆朱事業協同組合

☎ 53・1745

・ 商工観光課商工振興室

☎ 53・2111 (内線353)